

(9) 地域資源が心を癒す！メンタルヘルスツーリズム事業

1. 事業推進主体

- 1) 推進主体：房総メンタルヘルスツーリズム推進協議会
- 2) 代表団体：(株)JTB法人東京
参加団体：(社)鴨川市観光協会、鴨川グランドホテル、立教大学現代心理学研究科小口研究室

2. 企画の背景

現代社会において「うつ」を始めとする精神疾患が急増している。そのため、その治療法やリハビリ手法といった、メンタルヘルスの維持や改善向上に関心が高まっている。このニーズを満たす解決策の一つが “観光資源を活用した予防・改善法”「メンタルヘルスツーリズム」と考えられるため、モニターツアーの実施によって得られる実験結果（数知的根拠）により実証する。

1) 事業検討経緯

時期/会議名	検討内容
11月初旬 検討会議①	JTB法人東京、立教大学、鴨川グランドホテルの3者間で、モニターツアーの企画全体の検討、決定
11月下旬	鴨川市観光協会理事会にて検討会 ※本事業の全体説明およびモニターツアー案の提示、アドバイス
12月	実証事業事務局への現状報告の実施
1月 検討会議②	JTB法人東京、立教大学、勝浦テルムマランの3者間で、モニターツアーの企画全体の検討、決定

2) 事業実施期間および実施フロー

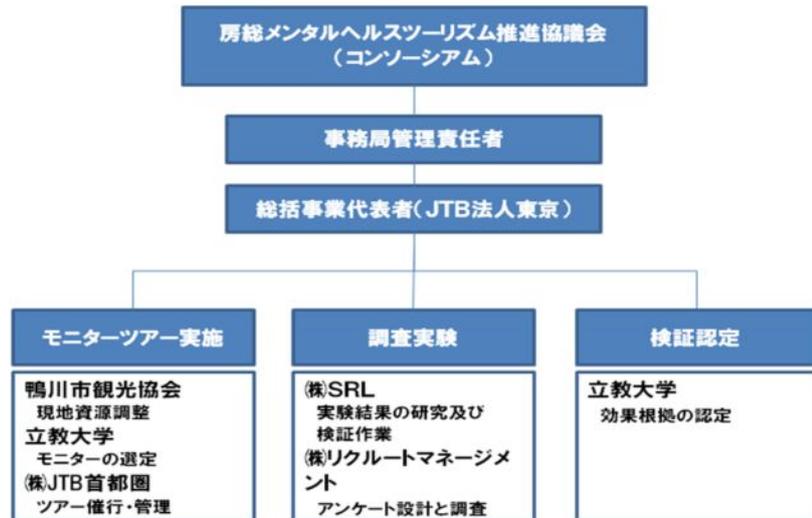
2009年11月～2010年2月

【事業実施フロー図】



※枠内が本事業範囲

3) 実施体制



4) 実証事業実施後の効果・展開予測

実験結果（数値的根拠）を基に、将来的には「新たな地域資源の開発」「効果的なプログラムの確立」を行い、事業化することを目指し、うつ病の予防・改善を継続的に実行していく。

また、房総地域にとっては、東京ディズニーリゾートや成田山新勝寺に続く、千葉県観光の新しい目玉ともなり、観光客が増え、地域活性化に繋がるとも想定している。

3. 実証事業の具体的な実施内容

1) タラソテラピーツーリズム モニターツアー

【実施目的】

“観光資源を活用した予防・改善法”「メンタルヘルスツーリズム」の数値的根拠を、モニターツアーの実施によって得られる実験結果により実証し、今後の観光施策に活用する。

【実施概要】

勝浦市内のタラソテラピーリゾート「テルムマラン パシフィック」にてタラソテラピーの効果測定を行う。

タラソテラピーについては、過去の調査実績やテルムマラン独自の調査でも癒しの効果が認められているため、今回は別枠で設定し、テーマ性をもった形での調査を行い、本事業の軸となる効果を期待した。

【実施コース】 タラソテラピーツーリズム 2コース

- ①アクティブ系（動） ②パッシブ系（静）

【対象者条件】 25～49歳の男性、仕事をしている人。

①男女での参加も可とする

※その場合の女性の利用は優待価格にて提供（15%off）

●女性の参加を可とした理由

- ・男性がモニター参加している最中、女性はゆっくりタラソテラピーを楽しめる。
- ・女性が男性に対して、参加を促してくれる。

⇒男女での参加の場合、テルムマラン直行バス利用可

②男女での参加の場合、宿泊手配を実施

- ・宿泊先（サヤンテラス）を紹介。特別価格にて手配

【参加人数】 1コース10名×2コース 20名

【実施場所】 テルムマラン パシフィック

【日程・スケジュール】 2010年1月30日（土） 日帰り

8:30 東京駅丸の内口 郵船ビル 出発

10:50 テルムマラン パシフィック到着

11:00 説明会

11:30 タラソテラピー スタート

12:30 ランチ

15:00 タラソテラピー 終了

15:30 全行程終了 フリー

17:30 テルムマラン パシフィック出発

20:00 東京駅着 解散

【参加費】 無料

【告知方法】

テルムマランのホームページ

テルムマランメールニュース

テルムマラン取引企業担当者、グループ会社へのメール、ファックスによる告知

【交通アクセス】 8:10東京駅発のバス（男性は無料、女性は通常料金（片道2,200円）



【実施内容】

1) タラソセラピーツーリズム	
・アクティヴ群	<ul style="list-style-type: none"> ● ツアー アクアトニック（温海水を利用した13種類の多機能プールをサーキット） セラピストが解説しながらアクアトニックを一緒に巡る ● ピシーナ ジェット 温かい海水の中で、壁から出るジェットを抵抗やマッサージに利用し、セラピストの指導のもと、腹筋や背筋などの筋肉を鍛える水中運動を行う。浮力がはたらくため関節への負担が軽減され、効率の良い身体調整が可能となる。 ● ピシーナ キネジ ビート板、浮き具などの道具を使って筋バランスを整える、アクティブな水中運動。セラピストが運動強度を調整し、楽しみながら行う。
・パッシヴ群	<ul style="list-style-type: none"> ● ツアーアクアトニック セラピストが解説しながらアクアトニックを一緒に巡る。 ● ピシーナ リラクゼーション フロート（浮き具）を使い海水の浮力に身を委ね、無重力の状態を体験する。セラピストが身体感覚を高めるよう導き、全身の緊張が解かれた状態で極上のリラクセス感を味わえる。温かい海水の揺らぎは、まるで胎内回帰を想わせる心地よい感覚。 ● エアロゾル 海洋性気候をイメージした、ミスト（霧）状の海水が充満した暗室内で深く吸い込みリラクセスする。ミストが気管支を浄化し、鼻炎・喘息などの呼吸器系疾患も和らげる。

2) 体験交流型ツーリズム モニターツアー

【実施目的】

“観光資源を活用した予防・改善法”「メンタルヘルスツーリズム」の数値的根拠を、モニターツアーの実施によって得られる実験結果により実証し、今後の観光施策に活用する。

【実施概要】

モニターを募り、ツーリズムに参加する前と参加いただいた後、アンケートをとって分析。それぞれの行動・体験により、メンタルヘルスの改善がみられるのかを検討した。

【実施コース】 鴨川市内の体験・交流型ツーリズム3コース

①周遊観光コース：

鴨川周辺の観光コースを巡る 15名

②グリーンツーリズム（農業体験）コース：

菜花摘み、いちご・フルーツトマト摘み体験 15名

③太巻き祭り寿司+菜花料理づくりの体験観光コース 15名

【対象者条件】 25～49歳の男性、仕事をしている方

【参加人数】 1コース15名×3コース 45名

【実施場所】

《全体説明》 鴨川グランドホテル

《体験場所》 各々、異なる場所で実施

【日程・スケジュール】 2010年2月6日（土） 日帰り

10:00 東京駅丸の内口 郵船ビル 出発

※大型バス2台にて移動

12:00 鴨川グランドホテル到着後、ツアーの説明を実施

12:30 昼食

13:15 観光へ（3つのコースに分かれて体験）

16:45 体験終了後、アンケート記入などを実施

17:05 鴨川グランドホテル 出発

19:00 東京駅着 解散

【参加費】 無料

【告知方法】

JTB首都圏ホームページ

立教大学小口ゼミOBへの案内（パンフレット配布）

JTB首都圏取引企業担当者へ告知（パンフレット配布）

テルムマランホームページ



【実施内容】

①周遊観光コース	鯛の浦、鴨川シーワールド等をめぐる
②グリーンツーリズム（農業体験）コース	菜花摘み、いちご・フルーツトマト摘み体験等
③太巻き祭り寿司+菜花料理づくりの体験観光コース	太巻き祭り寿司と菜花料理をつくる体験

3) モニターツアー詳細実施報告（参加人数）

1) タラソセラピーツーリズム		属性	人数
	・アクティヴ群	25～49歳の男性	10名
	・パッシヴ群	25～49歳の男性	11名
2) 体験交流型ツーリズム		属性	人数
	・周遊型観光コース	25～49歳の男女	8名
	・グリーンツーリズム(農業体験)	25～49歳の男女	10名
	・交流型ツーリズム(太巻き祭り寿司+菜花料理づくりの体験)	25～49歳の男女	9名
合計			48名

4. モニターツアー実施結果報告

1) 調査概要

【調査目的】

- ① ツーリズムに参加することにより、メンタルヘルスが向上するか？
 - ② どのようなツーリズムがメンタルヘルスを向上させるか？
- の検証と、今後の観光施策への活用方策を探る。

【調査専門家】

立教大学 現代心理学部 教授 小口孝司氏

【調査方法】

記入式アンケートの回収及び集計、分析

※今回の2種類のモニターツアーで、ツーリズム参加前と参加いただいた後に、記入式アンケートを実施するとともに、比較実験として旅行をしなかった人を対象に就労前の時間に記入式アンケートを実施した。

2) アンケート対象者のカテゴリー分けと分析方法

① タラソセラピーツーリズム

- ・アクティヴ群
- ・パッシヴ群

先行研究から、タラソセラピーがメンタルヘルスの向上に有効であることが示されているので、どのようなタラソセラピーがメンタルヘルスを向上させるのかを確かめた。その際、積極的に体を動かす運動を取り入れたアクティヴ群（10名）と、体をあまり動かさずに参加するパッシヴ群（11名）とに分けて検討した。参加者は男性のみである。なお、アクティヴ群では事後の測定ができなかった対象者が1名いたため、分析では9名となっている。

②体験交流型ツーリズム

- ・周遊観光コース群：既存の観光コースを巡るツアー
（鯛の浦、鴨川シーワールドなど）（男女合わせて8名）
- ・グリーンツーリズム群：農作業を体験するツアー
（今回はイチゴ摘み、プチトマト摘みなど）（男女合わせて10名）
- ・交流型ツーリズム群：太巻きなどを作るツアー（男女合わせて9名）

③ツーリズムなし群

比較のために、業務多忙でハードワーカーの多い企業の従業員を対象に、金曜日の午前中から休日の土日を挟んで月曜日の午前中までの期間に2回にわたり、ツーリズム群と同じ調査票に回答を求めるとともに、生理指標も採取した。調査参加者は全員男性である。

3) アンケート回収数

1) タラソテラピーツーリズム	属性	人数
・アクティヴ群	25～49歳の男性	9名
・パッシヴ群	25～49歳の男性	11名
2) 体験交流型ツーリズム	属性	人数
・周遊観光コース群	25～49歳の男女	8名
・グリーンツーリズム群	25～49歳の男女	10名
・交流型ツーリズム群	25～49歳の男女	9名
3) ツーリズムなし群	属性	人数
・業務多忙なハードワーカーが多い企業の従業員	25～49歳の男	14名

4) 使用した分析指標

①主観的ストレス度

「現在のストレスレベルは何%くらい？」との質問項目に対して0%から100%までの数値で答えるもの。

②GHQ得点

精神的不健康度を表す尺度の得点。主に精神的な健康度を反映する。得点が高いほど精神的に不健康であることを表す。

③SDS得点

うつ傾向を測定する尺度の得点。得点が高いほど、うつ状態が高いことを表す。

④コルチゾール濃度

ストレスレベルを反映するといわれる唾液中のコルチゾールの濃度を測定した。得点が高いほど、ストレスレベルが高いことを表す。

5. 調査結果（サマリー）

①どのようなツーリズム（観光）であっても、ツーリズムに行くと、ツーリズムに行かない人に比べて、精神的健康度を回復させる。

②自己報告式（セルフ・チェック式）の調査票と生理学的指標とは異なった結果が得られた。

・ツーリズムに参加しなくとも、休日をはさむことによって、調査対象者本人はストレスが低下したとの感覚を持つが、今回の研究では、自己報告式の測度は、直接的にストレスの程度を%で尋ねるものと、間接的に精神的不健康度（GHQ）とうつの程度を図るもの（SDS）とに分けることができる。結果、休日の効果は見られなくなり、さらに直接的な生理学的な指標になると、休日によってもストレスがとれていないどころか、ストレスが高まってしまっているという結果も散見された。

・交流型ツーリズムは、自己報告式の測度ではメンタルヘルスの改善に向けた有効性は示されていないが、生理指標では有効であった。

・グリーンツーリズムは、自己報告式の指標では最も有効なツーリズムであることが示されている。

・前回の千葉県の調査では、グリーンツーリズムに比べて、タラソテラピーツーリズムがストレスの低減に大きな効果があったが、今回はそのような差異効果は示されなかった。

このような結果になった理由として、前回調査は女性の参加者が含まれていたのに対し、今回はタラソテラピーを体験したのは男性のみであったことも関係しているであろう。今後は男性のみを対象としたさらなる分析を行う必要がある。また、体験交流型ツーリズムについては、今回は参加者の交流が盛んであったので、そうした点も関係しているのかもしれない。

・観光施設をいくつも見学して巡るような周遊型観光は、ストレス低減にあまり有効ではないのではないかとの予測を立てたが、結果はその予測に反していた。この理由として、今回の従来型観光では鴨川シーワールドや遊覧船で海を堪能したので、動物や自然に触れることによって効果があったのかもしれない。さらに参加者同士の交流もあったためである。今後は、より正確にこれらの影響を把握するために、自然や動物抜きでの観光との比較を行う必要がある。さらに、人と人とのふれあいの程度を統制してその効果を検討していくことが求められよう。

6. 調査結果詳細

1) 主観的ストレスの変化：「現在のストレスレベルは何%くらい？」

【主観的ストレス度】

「現在のストレスレベルは何%くらい？」との質問項目に対して0%から100%までの数値で答えるもの。

- ①いずれの群も、ツアー終了後の方がストレスレベルは低かった。
- ②ただ、ツーリズムに行かなかった群と交流型ツーリズム群のストレスの低下が小さく、その他はストレスレベルが大きく低下していた。

2) GHQ得点の変化：精神的不健康度の変化

【GHQ得点について】

精神的不健康度を表す尺度の得点。主に精神的な健康度を反映する。

得点が高いほど精神的に不健康であることを表す。

- ①いずれの群も、ツアー終了後の方がストレスレベルは低かった。
- ②しかし、ツーリズムに行かなかった群はほとんどGHQ得点に変化が見られないほどの軽微な減衰だったものの、グリーンツーリズム群は非常に大きな減衰を示していた。その他の群は、グリーンツーリズム群ほどではないものの、いずれもGHQ得点の低下、すなわち精神的に健康になっていた。

3) SDS得点の変化：うつ傾向の得点の変化

【SDS得点について】

うつ傾向を測定する尺度の得点。得点が高いほど、うつ状態が高いことを表す。

先のGHQ得点とは異なる結果を示していた。

- ①交流型ツーリズム群は変化がなかったが、その他の群はいずれも低下していた。特に、グリーンツーリズム群は大きな低下を示していた。それ以外の群はいずれも減衰していた。

4) コルチゾール濃度の変化：生理学的にみたストレスレベルの変化

【コルチゾール濃度について】

ストレスレベルを反映するといわれる唾液中のコルチゾールの濃度を測定した。

得点が高いほど、ストレスレベルが高いことを表す。

- ①ツーリズムに行かなかった群のみが上昇して、それ以外はすべて低下していた。
- ②低下していた群の中でも、前述してきた自己報告式の測度結果とは異なり、パッシブなタラソ群とグリーンツーリズム群のコルチゾールの低下が緩やかだったのに対し、アクティブなタラソ群、交流ツーリズム群、従来型ツーリズム群の低下が急であった。

7. 事業の成果と反省・課題、今後の展開

1) 成果

本事業では、タラソテラピーや農業体験、交流体験などのメニューを準備し、従来型の周遊観光とメンタルヘルスにおける効果の違いを狙っていたが、調査の結果では、周遊観光でメンタルヘルスの改善が他のメニューに劣らない効果が見られた。この原因として、海と動物というキーワードが考えられる。一般的な周遊観光でも、潮風にあたることや動物と触れ合うことをコースに含むことで、メンタルヘルスの改善効果を生むことがわかった。そのため、メンタルヘルスツーリズムの舞台として選定した房総エリアの可能性がさらに深まり、今後研究を重ねることで、海（潮風）と動物というキーワードを揃えることのできる地域では、房総エリアと同様の展開が可能と考えられる。

また今回、比較調査としてモニターツアーに参加されない方の唾液採取及びアンケート調査を実施した。その結果、ツーリズムに参加した方に比べ、ストレスの緩和が見られず、逆にストレスが増したサンプルが見受けられた。この結果から、メンタルヘルスツーリズムという枠を超え、どのようなタイプの「旅」でも、少なくとも出かけないよりは、ストレスの緩和を生むということになる。すべてのツーリズムに効果があると実証されたことは、観光産業に対する大きな成果と言える。

なお、モニターツアー告知などで知った自治体が取組に興味をもっていただき、実証実験の場を提供したいとの申し入れがあったことも成果と考えている。

2) 反省と課題

モニターツアー参加者の集客に非常に苦労があった。調査対象を、ストレスが多くかかると思われる世代（30～40代）、そして男性中心というところに絞ったことを主原因としている。しかしながら、この条件を曲げることで調査結果の信憑性に欠けることを懸念し、条件の緩和は最低限として募集を行った。結果、予定サンプル数を割ってしまいその点が大きな反省点となった。また実験の実施が冬場ということもあり、体験型メニューの制限があったことも反省点と考えている。

本事業で検証された、メンタルヘルスツーリズムにおけるストレスの緩和は実証されたものの、メニューそれぞれがどのような効果を与えたかまでは見えていない。実際に、周遊観光型での大きな改善効果も、海と動物のどのような要素がプラスになったかまでは分からない。

課題としては、モニターの選定及び募集方法を見直すことと、求めたい結果から導き出すメニュー構成を検討していくという点があげられる。

3) 今後の展開

現状、本事業で得られた結果だけでは、メンタルヘルスツーリズム商品の設定をすることはできない。引き続き、モニター調査などを通じて検証を続ける必要がある。

中でも、グリーンツーリズムが非常に高い抑制効果を出したが、内容が良かったのか？土に触れたことが良かったのか？参加者との交流が良かったのか？など、詳細のデータを分析できていないため、一概にグリーンツーリズムが、ストレス抑制に最も効果があると言い切ることは難しい状況である。

次のステップとしては、モニターの統一性（男女、年齢層など）や細かな体験プログラムなどを綿密に計算し、検証データの有効性を考えたメニュー作りが必須条件となる。しかしながら、観光に行くこと自体に効果があったことは事実であり、まずはこの点のPRを行っていききたい。

また医療機関などの様々な分野から専門家などを招へいし、さらなる事業の追求を行い、効果のあるプログラムを、着地型観光商品として商品化することを目指していききたい。

そして、プログラムの販売先として想定していた企業の健保組合には、複数件直接お伺いをし、実情の把握（うつ病による休職者に対する対応方など）を行い、またメンタルヘルスツーリズムにおける必要性や期待度、さらには理想像などもヒアリングし、ニーズに合った形の商品化を同時に検討していききたい。

■参考資料

◆タラソテラピーツーリズム 調査票

Health Check (タラソテラピーのご利用にあたって)			
フリガナ	男・女	生年月日 西暦	年 月 日(才)
氏名	血液型	型	身長 cm
〒	ご住所	都 道 府 県	
TEL	パソコン メールアドレス		
()	@		
携帯メールアドレス(携帯メール会員へのご登録となります)			
※新着情報やお得な情報をいち早くお届けたく存じます。ご希望と方法に□にチェックをいれてください。 □希望する (□郵送 □PCメール □携帯メール □郵送・メールどちらも) □どれも希望しない			

当施設は、タラソテラピーご利用に際する皆さまの安全性には十分な配慮を心がけておりますが、より充実した時間をお過ごしいただくために、下記事項のご確認とご記入、および裏面へのご署名をお願いしております。なお、現在、健康面に何らかの問題や不安をお持ちの場合には、お申し出のうえ、スタッフにご相談ください。

①当施設のご利用目的を教えてください (3つまでご選択いただき、○で囲んでください)

1.タラソテラピーに興味がある	6.体型改善(ダイエット)	11.精神的リラックス
2.肉体的リラックス	7.痛み・疾患の改善・予防	12.知人に誘われて
3.ストレス解消	8.体調の回復	13.旅行・レジャーのひとつ
4.爽快感(リフレッシュ)	9.スキンケア	14.その他
5.フィットネス	10.リハビリテーション	()

②これまでに、タラソテラピーを体験されたことはありますか？
NO ・ YES (いつ どちらで)
(どのようなトリートメントを)

③水やプールに対する不安感などはお持ちですか？(泳げない、中耳炎など)
NO ・ YES (理由など)

④昨夜の睡眠時間は何時間でしたか？()時間程度

⑤健康面の不安や問題点などはございますか？
NO ・ YES ※YESとお答えの方は、裏面の⑧～⑩の質問にもご記入ください。
ex) 心臓および循環器系に障害のある方 ・ リウマチ性の障害及び関節に障害のある方
・ 本日、アルコールを召しあがった方 ・ その他
・ ひどい痛みやかゆみ、傷やヨードアレルギーなど皮膚疾患のある方は、⑪～⑬にもご記入ください。

※以下は、女性の方のみへの質問です。

⑥現在、生理中ですか？
NO ・ YES

⑦現在、妊娠されていますか？
NO ・ YES ・ わからない
*妊娠中(16～32週のみ)の方は、ご予約時にご相談ください。

あてはまる数字に○をつけ、必要事項をご記入ください。

⑧以下の症状で自覚する事や医師の診断を受けたことは、ありますか。

- | | | | |
|---------|----------|-------------|----------------|
| 1.糖尿病 | 8.高脂血症 | 15.関節炎 | 22.胸部不快感 |
| 2.脳血管疾患 | 9.癌・潰瘍 | 16.むくみや腫れ | 23.皮膚疾患 |
| 3.肺疾患 | 10.精神的疾患 | 17.貧血 | (湿疹・じんましん・水虫他) |
| 4.リウマチ | 11.高血圧 | 18.肥満 | 24.倦怠感 |
| 5.静脈疾患 | 12.腎臓病 | 19.手足のしびれ | 25.動悸・息切れ・めまい |
| 6.肝臓病 | 13.腰痛 | 20.頭痛 | 26.腰・肩の不快感 |
| 7.心臓病 | 14.甲状腺疾患 | 21.アレルギー性疾患 | 27.その他 |
- (ヨード・金属・その他) ()

⑨上記についてお教えてください。

(いつから どのような経過か)

⑩上記について、医師から指示を受けていますか？

ない ・ ある()

肌のコンディションについて教えてください。 <ビューティトリートメントをお受けになる方へ>

⑪これまでに、化粧品によるアレルギーやかぶれを経験されたことはありますか？

ない ・ ある(アイテムまたは製品名:)

⑫現在の肌質はどのような状態ですか？

(普通肌 ・ 脂性肌 ・ 乾燥肌 ・ 混合肌 ・ 敏感肌)

⑬現在、肌の悩みや気になることはありますか？

(乾燥 ・ 小じわ ・ シワ ・ くすみ ・ しみ ・ 透明感のなさ
ハリ/のなさ ・ たるみ ・ 毛穴 ・ にきび ・ 吹出物 ・ その他)

⑭本日のご利用にあたり、トリートメント担当者へお伝えになりたいことなどがございましたらどうぞ自由にご記入ください。

■ ご同意ください ■

タラソテラピーを受けることにより、運動効果に似た体調の変化が現れます。つきましては、ご自身の健康と快適なご滞在のために、体調の変化などには十分に気をつけていただきながら当施設のご利用をお楽しみください。また、タラソテラピーや、それに類するプログラムをお受けいただくにあたり、万一の問題が発生した場合には、自己責任が生じることをご了承ください。

西暦 20 年 月 日

ご署名

プライバシーポリシー

この用紙にご記入いただいた情報は、お客さまに、安全かつ効果的にタラソテラピープログラムをお受けいただく目的や、新しいサービスや製品などの情報をお知らせするために、テルムマランにて大切に利用させていただきます。(そのような情報をご不要な場合は、お知らせ致しません。)なお、情報は厳重に管理し、第三者に開示・提供する事はいたしません。但し、法令の定める事務を遂行することに対して協力する必要がある場合には、その必要性の有無を十分検討した上で、開示することがあります。また、お客さま個人の情報の開示・訂正・削除等につきましては、ご本人からのお申し出により、適切に対応させていただきます。

◆体験交流型ツーリズム 調査票

<事後調査>

調査のご協力へのお願い

この調査は観念によるメンタルヘルス向上効果の研究の一環として、企業に勤務している方々にご意見をお伺いするものです。結果は統計的に処理されますので、個人の情報が漏れることは一切ありません。また研究目的以外に使用することはありません。どうぞ調査にご協力くださいますよう、よろしくお願ひ申し上げます。
なお、回答にあたってはあまり考え込まず、思いついたままご回答下さい。

調査代表者（調査代表組織）小口孝司 立教大学現代心理学部
調査プロジェクトの連絡先
立教大学現代心理学部 心理学科 小口研究室
TEL&FAX: 048-471-7096
E-mail アドレス: oguchi@rikkyo.ac.jp

調査倫理に関わる注意事項

1. この調査への参加は強制されるものではありません。回答するかどうかはあなたの意志で自由に決めることができます。
2. 答えたくない質問がある場合には、その質問を飛ばして次の質問に移ってください。
3. 回答を途中でやめたい場合には、すぐにやめて構いません。
4. 回答しなかったり、回答を途中でやめたりしても、いかなる不利益も生じません。
5. 調査の結果は研究目的のみに使用され、学会発表や学術論文に投稿されます。但し、結果は統計的に処理され回答をそのままの形で公開されることはありません。
6. 調査結果は鍵付きロッカーに保管されるなど厳重に管理されます。
7. ご質問やご意見がある場合は、調査実施者の連絡先までご遠慮なく問い合わせ下さい。

以上の内容に 同意します
 同意しません

ID _____

※IDの欄には、名前の頭文字+小学校の頭文字+誕生日をIDとして記入して下さい。
例) 山田 太郎 埼玉小学校出身 1月1日生まれの場合
ID: YTS0101

サリベットのラベル番号: _____

<サリベットによる唾液採取時のチェックシート>

※以下の設問は唾液の成分を分析する際の参考となるデータとなります。

いかなる回答の内容であっても皆さんにとって不利益なものにはなりませんので、なるべく正確に回答を行ってください。

- ① 喫煙の習慣はありますか？
ある ・ なし（どちらかあてはまるほうに○をつけてください）
※「ある」と回答した方は1日平均_____本（大体的本数をお答えください）
- ② 24時間以内にアルコールを摂取しましたか？
した ・ していない（どちらかあてはまるほうに○をつけてください）
※「した」と回答した方は何をどのくらい飲まれたかをお答えください。

- ③ 現在、口内炎（口腔内の潰瘍）はありますか？
ある ・ なし
- ④ 現在、服用している薬はありますか？（貼り薬や塗り薬などを含む）
ある ・ なし
※「ある」と回答と回答した方は以下の余白にその薬の名前（分からない場合はその薬の目的や用法など）を分かる範囲で挙げてください。

質問は以上です。
ご協力ありがとうございました。